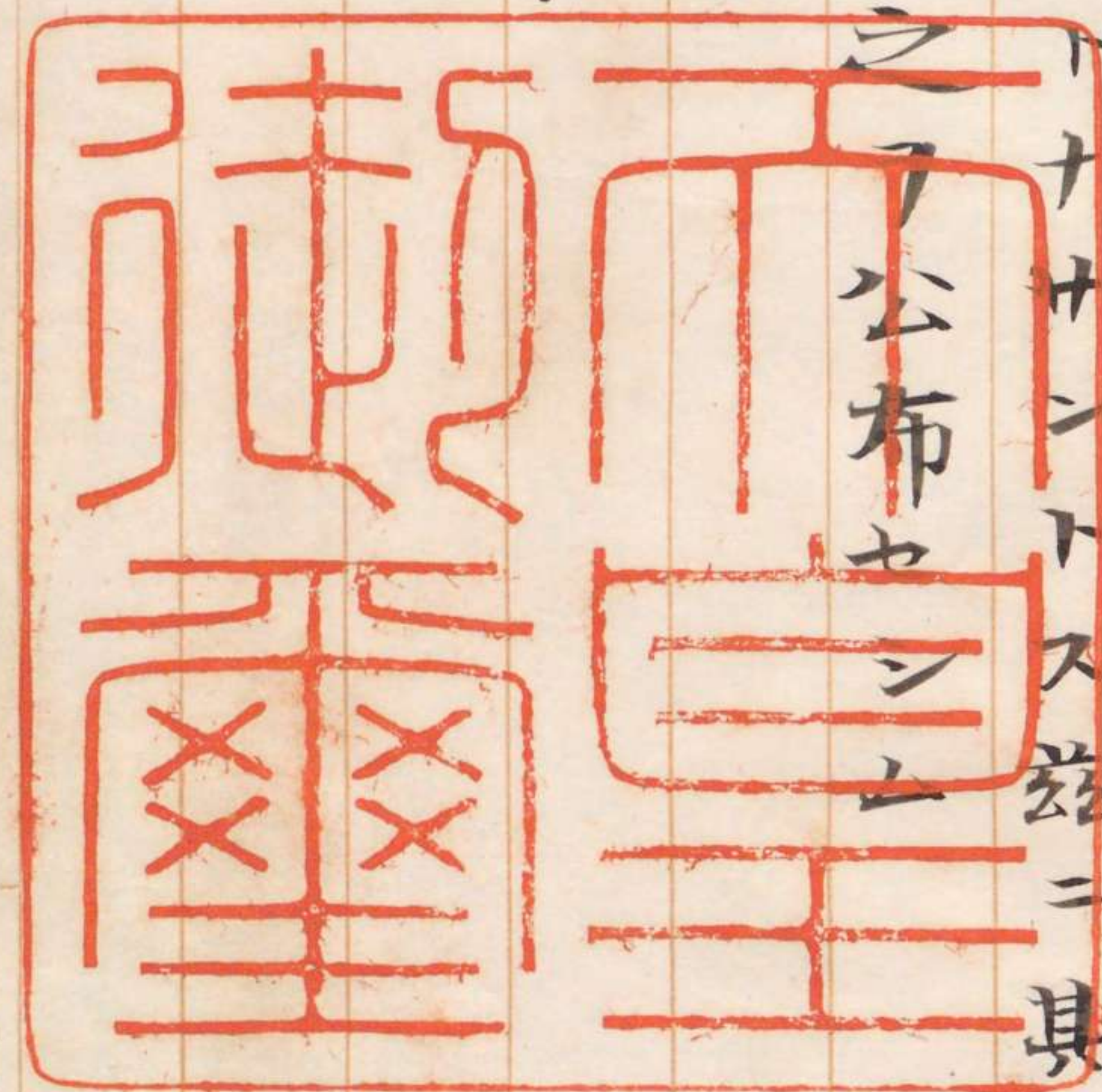


勅令第二十二号



朕元勳及練達ノ人ヲ撰ニ國務ヲ諮詢シ其啟沃
 ノカニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至
 高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務規
 程ヲ裁可シ之ヲ公布ヤシム

睦仁



月

明治二十一年四月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第二十二號

樞密院官制

第一章

組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ
國務ヲ諮詢スル所トス

第二條 樞密院ハ第一議長一人第二副
議長一人第三顧問官十二人以上第四
書記官長一人及書記官數人ヲ以テ組
織ス

第三條 樞密院ハ議長副議長顧問官ハ

親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任ト
ス

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達
シタルモノニ非サレハ議長副議長及
顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條 議長ハ書記官ノ内ヲ以テ秘書
官ヲ兼子シムルコトヲ得

第二章 職掌

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付會議ヲ
開キ意見ヲ上奏シ勅裁ヲ請フヘシ

一 憲法及憲法ニ附属スル法律ノ解
釋ニ関シ及豫算其他會計上ノ疑
義ニ関スル爭議

二 憲法ノ改正又ハ憲法ニ附属スル
法律ノ改正ニ関スル草案

三 重要ナル勅令

四 新法ノ草案又ハ現行法律ノ廢止
改正ニ関スル草案列國交渉ノ條
約及行政組織ノ計畫

五 前諸項ニ掲タルモノ、外行政又

ハ會計上重要ノ事項ニ付特ニ勅命ヲ以テ諮詢セラレタルトキ又ハ法律命令ニ依テ特ニ樞密院ノ諮詢ヲ經ルヲ要スルトキ

第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載ス
一シ
第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ関シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ

第三章 會議及事務

第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ

第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議

席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス又各大臣ハ
委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及說
明ヲ為サシムルコトヲ得但表決ノ數
ニ加ラス

第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ
之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ於テハ
會議首席ノ決スル所ニ依ル

第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切
ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一
切ノ公文ニ署名ス

副議長ハ議長ノ職務ヲ輔佐ス

第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受
ケ樞密院ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文
ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査
シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辨明
ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス
書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及
書記官長ノ職務ヲ輔佐シ書記官長事
故アルトキハ書記官之ヲ代理ス
前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事

件質問答辨及議決ノ要旨ヲ記載スル
モノトス

第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ
審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必要ナ
ル書類ト共ニ之ヲ各自ニ配達シタル
後ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報
スヘシ

樞密院事務規程

第一條 樞密院ハ^レ會議ニ下付セラ

レタル事項ニ付意見ヲ^ラ

第二條 樞密院ハ帝國議^會其一院又ハ

官署又ハ臣民ヨリ請願上^旨其^レ通信ヲ受領

スルコトヲ得ス

第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣ト^ノ公務

上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣

民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ

有スルコトヲ得ス



件質問答辨及議決ノ要旨ヲ記載スル
モノトス

第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ
審査報告書ヲ請ハシ其會議ニ必要ナ
ル書類ト共ニ之ヲ各員ニ配達シタル
後ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
議事日程及報告書ハ豫メ各大臣ニ通報
スヘシ



樞密院事務規程

第一條 樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラ
レタル事項ニ付意見ヲ述フ

第二條 樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ
官署又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領
スルコトヲ得ス

第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノ公務
上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣
民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ
有スルコトヲ得ス

第四條 議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム
議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ラ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ

第五條 審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ為スコトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短

ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ

第六條 議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ遷延スルコトヲ許サス

内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得

第七條 審査報告書ハ附属文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之

ヲ記入スヘシ件名簿ニ登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招状ヲ兼ヌルモノトス

第九條 樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循由シ議

長若クハ副議長之ヲ整理スヘシ

書記官長又ハ書記官ハ其事件ノ性質ヲ簡明ニ演述シ議決ヲ取ルヘキ要點ヲ辨明ス次テ各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人タリトモ議長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ發言スルコトヲ得ス討論既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ左ノ順序ニ從ヒ表決ヲ為サシム第一出席ノ各大臣第二席順ニ從ヒ列スル所ノ顧問官トス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス

議決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

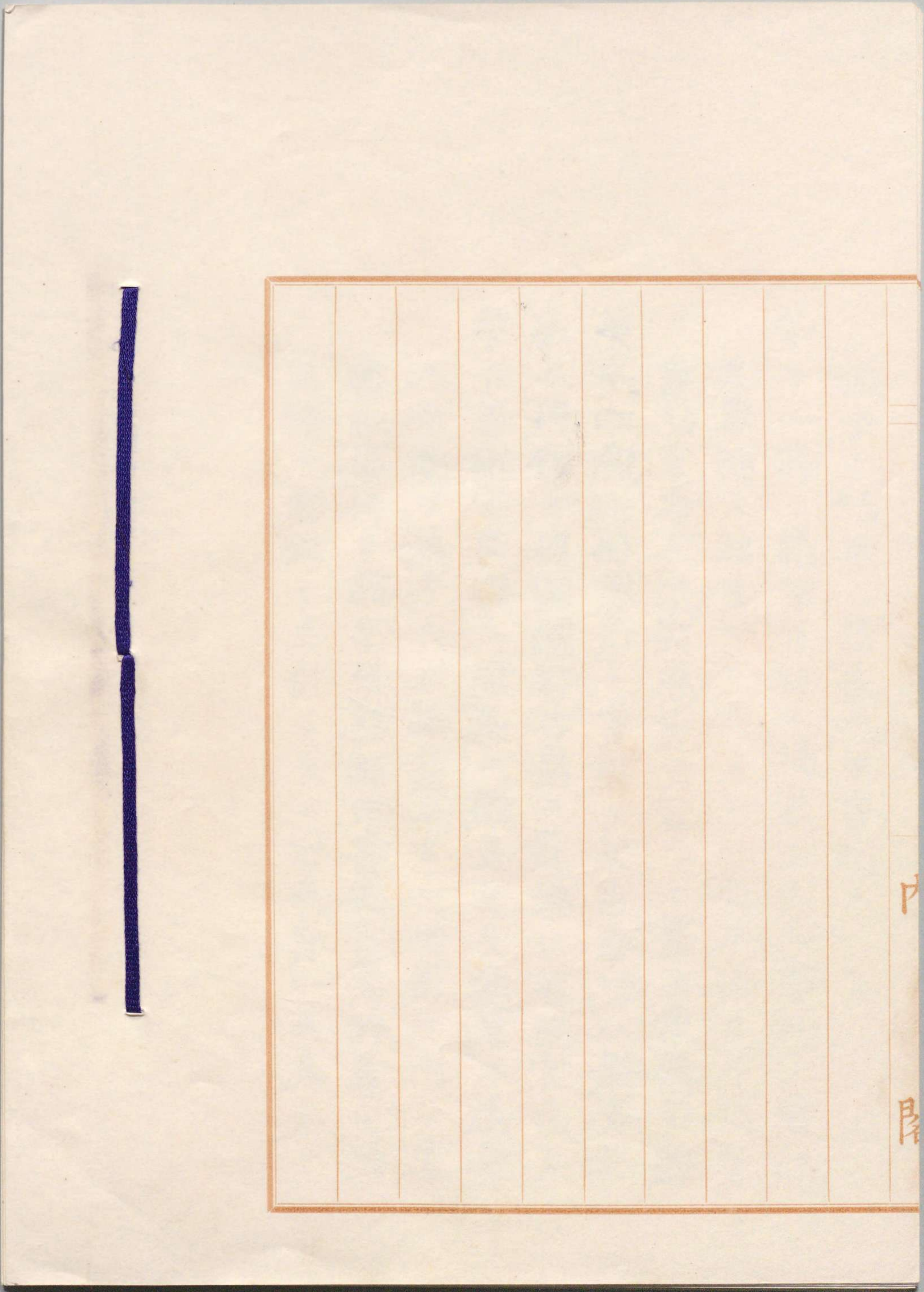
第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議
其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延會
スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定
式ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又
ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長
ノ檢閲ヲ請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重
要ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘ
シ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト
其理由トヲ議事筆記理由書又ハ要領書ニ記
入セラレンコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏
シ同時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ

第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及
書記官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確
ヲ表明スヘシ



内

陽